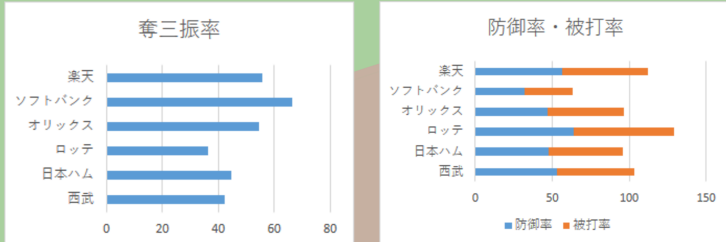


パリーグ6球団の特徴を 4年間のデータから考察する。

方法：2013～2017年間の、各チームの投手成績（奪三振率、防御率、被打率）、野手成績（長打率、出塁率、打率）からリーグ内での各チームの偏差値を割り出し比較する。

投手部門

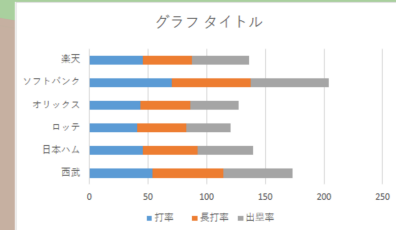


投手の能力の指標として、奪三振率、防御率そして被打率を扱った。奪三振率が高く、防御率・被打率が低い球団がより良い投手陣を保持していると考えられる。奪三振率の偏差値が最も高いのはソフトバンクで、66でありこれは最下位のロッテよりも30高い。低い方が良いとされる被打率、防御率でも2位の日本ハムに33の差をつけ63という他球団に比べ圧倒的に低い数値をたたき出している。

二つの表のデータより、投手の総合能力ランキングは（奪三振率）－（防御率＋被打率）より

- 1位ソフトバンク
- 2位オリックス
- 3位日本ハム
- 4位楽天
- 5位西武
- 6位ロッテ

野手部門



野手の能力の指標としては、打率、出塁率、長打率の3つを使用した。結果はソフトバンクが最も高く2位の西武に31の差をつけた。最も数値が低かったのはロッテで、5位のオリックスとは7、1位のソフトバンクとは84の差がついた。うちわけで、六球団の差が最もひらいていたものは、出塁率であり1位と6位の差が29であった。三つの指標全てにおいてソフトバンクの偏差値が最も高かった。

総合の野手の能力ランキングは

- 1位ソフトバンク
- 2位西武
- 3位日本ハム
- 4位楽天
- 5位オリックス
- 6位ロッテ

過去四年間のシーズン成績と比較して

過去四年間のシーズン順位の平均と比較していくと
それぞれのチームの特徴が見えてきた。

列1	平均順位
ソフトバン	1
日本ハム	2
西武	2
楽天	5
オリックス	6
ロッテ	4

- ソフトバンク：投手野手ともに他の5球団を圧倒する数値で1位。順位平均も1位なので偏差値から言うとパリーグで最も強い球団だといえる。
- 日本ハム：投手野手ともに3位だが、他の球団に比べてびぬけた数値はない。そのことから、投手と野手がともに一定の実力がありまた双方のバランスがとれていると考えられる。
- 西武：投手5位野手2位、それでも総合2位になっていることから投手の部分を野手の得点力でカバーしている。
- 楽天：投手野手、平均順位全て4位。つまり、現在投打のレベルは同じくらい。奪三振率は上位3位に入っているが、防御率・被打率が足を引っ張ってしまっている。野手のほうでは出塁率は上位であるが、長打率は低い。
- オリックス：投手2位、野手5位、総合5位。西武とは逆に相手に点は取れないが、自チームの得点力が低いため順位も下がってしまっている。偏差値から、投手の数値はすべてリーグ平均以上であるが野手の数値が3つとも平均以下であると分かる。
- ロッテ：投手野手、平均順位全て6位。投手では奪三振率が低く、防御率・被打率が他球団に比べ高い。また野手では、ほかの球団に比べ出塁率の低さが目立った。

考察

平均順位と投手野手の成績の偏差値を比べた結果から現在のパリーグにおいてソフトバンクホークスが最も成績が良く強いチームだといえる。また、日本ハムや楽天のように投打のレベルが同じくらいのレベルの場合それがそのまま平均順位に反映されている。しかし、西武やオリックスのように投打のレベルが異なる場合、平均順位への反映のされ方が少し変わってくるように思える。西武とオリックスは投手と野手の順位が逆転している。しかし、平均順位で見ると西武は3位でオリックスは5位なのだ。このことから、投打のバランスが偏っている場合、打者のほうが成績が良いチームのほうが投手の成績が良いチームよりもシーズンにおいては強いことが言える。おそらくこれは、得点力の違いだろう。投手が相手を抑えても、得点が取れなければ勝てないということがこの二チームの偏差値から考えられる。